

見 学 調 査 報 告 書

テーマ : 多文化共生の実践 群馬県大泉町の経験に学ぶ
ゼミ名 : 舟木 律子 ゼミ
調査日 : 2024 年 11 月 5 日 (火)
調査先 : 群馬県大泉町観光協会
授業科目名 : GPP リージョナル・スタディ南北アメリカ・演習Ⅱ
参加学生数 : 1 名 (2 年)、7 名 (3 年生)

調査の趣旨 (目的)

移民社会としての日本の実態調査を目的とし、ブラジル人をはじめ人口の 2 割を外国籍住民が占める大泉町を訪問する。大泉町観光協会 (日本定住資料館) において、事務局長の中山正樹氏および、日系ブラジル人 3 世として幼少期に二つの文化圏での生活経験をもつ平野勇パウロ氏 (株式会社アルテソリユーション代表取締役) に、大泉町における多文化共生の実態、ご経験、取り組み等のお話を伺うことを目的として見学調査を実施した。

調査結果

大泉町観光協会では、最初は大泉町の概要について、大泉町観光協会事務局長の中山氏より外国籍住民人口推移のデータに基づいた説明があり、同自治体が外国籍住民比率において、全国で 2 番目に高い自治体となっている状況・これまでの変遷、観光協会の事業内容について説明があった。

次に、平野氏より、移民 1 世 2 世祖父母両親の経験、ブラジル・サンパウロ市の日系社会で生活されていた幼少期の経験、来日された 1990 年代当時の日本の公立小学校の状況、その後一旦は自身の「ブラジル人」としてのアイデンティティを伏せて生活してきた経験について説明があった。つづいて、2008 年のリーマンショックの際に、真っ先に解雇された日系ブラジル人をはじめとする外国籍労働者の状況と、それによってデカセギ労働者の憩いの場であった大泉町のブラジリアンタウンの商業が打撃を受け衰退した状況、その状況に際し、地元の中小零細企業を支える目的でフリーペーパーの発行をはじめた経緯について説明された。平野氏はこの経験を機に、自身が現在取締役を務め IT 系の会社を立ち上げ、現在まで段階的に事業を拡大してこられた。

講演に続いて行われた質疑応答では、サンパウロの ジャパニーズタウンであるリベルダージの日本文化と、日本で経験した日本文化の違いや、ブラジルにおける日系人間の交流、日本とブラジルの価値観の違い、最近のブラジルから見た日本のイメージの変化、日系 4 世の日本観、大泉町の住民間関係現状、日系ブラジル人の高校進学状況。日本の大学への進学希望等についての質問があり、平野氏からは日本とブラジルの両方の文化と生活経験を踏まえた視点からの見解が述べられた。

講演後は、大泉町の多国籍商店、その中でも特にブラジル系の商店を見学した。これらの商店では、日系ブラジル人住民の生活にはなくてはならない商品・サービスを扱っており、

利用客にとっては交流の場ともなっている状況が伺えた。

通常のゼミ、GPP 科目リージョナル・スタディでは、移民社会としての日本、南米日系人に関する基礎知識を学んできた。今回の見学調査では実際の状況・経験を当事者の方から伺うことができ、有意義な見学調査となった。

